

# 令和元年度第1回御前崎市総合教育会議

日 時 令和元年9月25日（水）  
午後3時30分～5時00分  
会 場 御前崎市役所 303会議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協 議  
（1）平令和元年度 全国学力学習状況調査について
- 5 閉 会

## 御前崎市教育委員会出席者名簿

市	長	柳	澤	重	夫
教	育	河	原	崎	全
委	員	竹	田	和	世
	〃	島	田	惠	美
副	市	鴨	川		朗
総	務	増	田	正	行
健	康	大	倉	勝	美
教	育	長	尾	智	生
学	校	長	谷	川	延
社	会	長	尾	詔	司
教	育	高	田	和	幸
教	育	池	ヶ	谷	侑
教	育				里

○市長（柳澤重夫）

御承知のとおり4月には全国学力状況調査が実施されまして、御前崎市の小学校、中学校の結果が出ました。今日は分析した結果を基にさらに結果が良くなるよう御協議をいただけましたら大変ありがたいと思っております。申し上げるまでもなく、教育の必要性、重要性が何よりも増して大事であります。さらに御前崎市の子どもたちの学力が向上し、人間味豊かに育つように、そういった方向で皆さまの熱心な御協議をいただければ大変ありがたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

○教育長（河原崎 全）

教育行政につきましては、他の一般行政と異なりまして、基本的には独立したものであるという位置づけで日頃運営されていますが、教育関係だけが独立して全てやれるものではございません。市長部局の連携を密にしながら運んでいかないと、子どもたちにとっての良い教育はできないと思っております。以前は教育委員会のみで動いていたところがありますが、ここ数年は市長部局と特に市長を中心とした皆さま方の御意見も取り入れながら、よりよい形で行政を進めていくという形になっております。今日は年2回のうちの1回ですが、市長と教育委員の皆さま方が教育について意見を語り合う貴重な場だと思いますし、また、副市長はじめ、関係部長の皆さまにもそのやりとりをお聞きいただいた中で教育にも御理解を深めていただいているんな面で御指導いただければありがたいと思っておりますので、限られた時間ですが実りある良い時間にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○市長（柳澤重夫）

先ほど申し上げました全国学力状況調査の分析につきまして学校教育課長に説明をお願いしたいと思っております。

○学校教育課長（長谷川延明）

本年度の学力状況調査の結果は、小学校は、国語が68、算数67ということで、県と国の平均点を上回っています。中学校につきましては、残念ながら国の平均を上回るものはありませんでしたが、ここ数年の中では1番全国の平均に近づいてきているということで、本年度は、全体的にはよかったという感じを持っています。中学校3年生が小学校6年生のときに受けた平成28年度の結果は、このようなものでした。国語Aは全国を上回っていますが、ほかのものについては若干下回るということで、それが3年後、3年生になっても解決することができなかったということで、ここは悔やまれるところです。数学について、経年で比較すると小学校の時よりも平均点がちょっと低くなっていると、そういったことが見えてくると思います。

次に、最近の問題の傾向、特に御前崎市が苦手としている部分について説明させていただきます。小学校の算数、比較的、今年度がよかったのですが、その中で少し心配だったものが乗法の式の意味を理解しているかどうかということです。これは、全国は47%の正答率で、本市は約5%劣る42%でした。「リボンを0.6メートル買ったときの代金が180円でした。このリボン1メートル分の代金はいくらですか。」という問題です。式を作ってそれぞれ割り切りやすいように10倍して、 $1,800 \div 6$ という式で300というものを求めています。問題自体が1メートル分の代金はいくらですかということで、両方を10倍したので、当然これは1メートル分というのは問題に書いてある通りわかるのですが、こういうことを聞かれるとイの1メートル分と答える児童が42%しかいません。計算しなさいと言えば簡単にできる問題もこういった式の意味を理解しているかどうかという問題になると極端に落ちてしまうということが、本市の一つ課題であります。それが昨年と同じような問題の傾向がありました。全国が40%のところ、市が34%の子どもしかできていなかったという問題です。「答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を4つの中から全て選びなさい。」という問題で文章の読み取りがきちっとイメージできていないと答えられないかもしれません。1番を選ぶ子どもたちが非常に本市の場合は、多く「1メートルの重さが12キロの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8の重さは何キロですか。」という本来 $12 \times 0.8$ で求めなければならないものを割り算で求めようとするところが本市の欠点でこういったことをどういうふうにして考えていかなければならないかということが一つ課題です。

次に昨年、二極化ということをいろんなところで話をさせていただきました。これは中学校の英語の本年度の問題です。1番はカレンダーを見て少女の誕生日を答えるという質問で、本当に基本的な表現を用いるものです。それは全国が27%の正答率に対して市は34%、7ポイントぐらい高いです。2番はテレビを見ている2人の子どもの絵を見て何をしているのかを答えるという問題、これも基本的な文法を理解して答える問題、これは約50%に近い子たちが答えられています。次の3番も基本的な表現で応答するというので、こういった基本的なものについては、全国平均よりもかなり高い正答率を誇っていますが、2番と3番の少し会話が複雑になってそれを聞いてやりとりをすることができるといふ答えは全国的にも低いのですが、本市はちょっと複雑になってくると苦手になってしまいます。3番についても同じで、海外のテレビ局の要望に応じて自分の将来の夢またはやってみたいことを話すということについては、自分の考えを整理してまとまりのある内容を話すということが全国よりも10ポイント低い状況になりました。こういう基本的なものについてはできるけれども、応用の問題ができないというところがあります。小学校の国語については、テスト結果で中間層が全国や県よりも非常に多かったので、大変よい結果が表れました。これはすごく嬉しいことだと思います。次に小学校の算数、これはほぼ全国平均と同じような数字でしたので、大体分布も同じような形になっております。昨年見られた二極化ということは、今回のテストの中では見られませんでした。

中学校です。中学校の国語も全国平均とほぼ同じような内容ですので、分布も同じですが、若干10問できた子の割合が少ないというのは見て取れると思います。次に数学です。中間層が多くて上位層が少なくなってしまうのは明らかです。13、14、15、その辺もできる子どもたちが非常に少ないということが見て取れます。これが学習状況調査について簡単にまとめたものですが、これまでの報告の中でこんな取り組みをしたらどうかというものがありましたら、御協議いただければ嬉しいと思います。

○市長（柳澤重夫）

ただいま小中学校のこれまでのテストの結果や経緯が見られましたが、この件に関しましてさらに学力アップに向けて皆さまから御意見をいただければありがたいと思います。先ほどの小学校6年生の結果がそのまま中学3年生の結果に繋がっているというのは改善策があったと思います。今回は小学生の成績が全国平均を上回っていますが、中学校は少し低いです。小学生は成績がそのまま中学生へ移行していきますので、小学校の学力が基礎になっていることを感じました。そういった点も含めまして改善していくためには、どんなことが良いのか議論していただければありがたいと思います。

○教育委員（竹田和世）

今、市長が言われたように小学校の成績がそのままということで、小学校時代の生活習慣とか学習習慣をちゃんと付けておくということがやっぱりベースというか、とても大事なことだと思います。中学生になったから、急に勉強する時間を延ばすとかそういう問題ではないと思うので、今スクラムスクール運営協議会で取り組んでいるネットやゲームとかそういう時間をだんだん短くしていくとか、家庭環境や学習習慣は、小学校のうちからが大事だと思います。

○市長（柳澤重夫）

親御さんの指導方針が変わってくるかどうかもあり、環境がすごく必要だと思います。そういったことも影響すると思いますし、また子どもの学習意欲も個人で違うと思いますので一概にはなかなか全てを向上させることはできませんが、平均点が上がるようにはどうしたらいいかだと思います。難しい話ではあります。家庭教師の先生の話がテレビでやっていました。その先生は1時間2万円だそうです。予約がずっと取れない状況で。その先生への1時間の過程で30分は一般的な世間話を子どもとしてすごく良い雰囲気の中でそれから30分勉強を教えるという。それが高いか安いかは別の話として、子どもたちの進学率も高いそうです。教育のやり方ですね。ただ学力をあげるために持ち時間の1時間をみっちり学習するのか、今の家庭教師の先生みたいに子どもの心を広げてリラックスしてその後の時間を集中的に勉強させるとか、その先生はそういった考え方でやっていますが、学校で果たしてできるかということもあります。そのあたりも大きな教育課題かと思っています。それから、子ども

たちがどのくらいの時間なら勉強に集中できるかということもあると思います。

○教育委員（島田恵美）

中学校と小学校を訪問し、授業を見せていただいて先生方が研修や勉強を一生懸命やってくださっているのが授業に表れているクラスもありました。そういう先生というのは、すごい子どもの意欲を掻き立てて楽しい授業で笑顔の多いクラスで手も上げるし、子どもが自分たちで考えを出し合う姿もたくさん見られて、どのクラスもとはいかないけれども、そういう先生方の授業を研修しながらやっていくことで少しずつ、すぐに成果は見えないかもしれないですが変化していくといいなと思いました。

○市長（柳澤重夫）

そういう先生の話術や魅力によって、その先生が教えてくれるから一生懸命やりたいという気持ちも少なからずあると思います。子どもたちの興味を引くような話をするのも大事だと思います。先生の指導能力とか、そういったものも影響力があるのではないかと思います。

○教育委員（竹田和世）

好きこそものの上手なれという言葉がありますけど、それって本当で、子どもたちが興味を持ってその教科が好きになると取り組む姿勢も違ってきて、そうすると成績にも反映していくという、そういう好循環を作ってあげられたら良いと思います。

○市長（柳澤重夫）

御前崎市の教育としては、子どもたちの学力向上が緊急課題で、反面、それが人間性を育てる全てではないと思うのです、私は。学力向上の中に合わせて人間味豊かな人に育てる。これが教育の1番の基本だと思います。学力とあわせて人間味や社会性を育てるような、そういった教育も私は大切だと思います。先生方とざっくばらんに話せるような機会も教育委員会はあるのですよね。そういった話もしていただいて、先生方も学習の仕方とか学力向上と抑えられてやるよりも、先生を持ち味を活かした教育といったものをやっていただければ、嬉しいと思います。

アインシュタインが「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくること、それが教育の目的といえよう」と言っていました。教育というのは難しく御前崎市の子どもたちにこれだけはどこに行っても負けないようなもの、勉強だけでなくそういった特化したものでもいいので勉強と同時に覚えてもらえたらと思います。いつも言うように、私たち大人が教育を受けて20歳まで生きてその3分の2ぐらいは社会人として生きるための教育なので、そのためにはこれからの教育はどうしたらよいか大事だと思います。今までの教育で良いのか、これから社会の中でICTをやれるような子どもたちを育てていくのも大事だし、少しずつ形を変えていかななくてはいけない面もある。基礎学力だけはどこにいても基礎なので、高等教育の中で覚えていることだけ学習の学力だけは小学校の時分からやっておかないとまずいなと思います。教育委員の皆さまが良い機会があったら先生方と話をし、先生の人間力も高めるといったことでないと教育というのはうまくいかないと思います。

○教育委員（竹田和世）

七夕の時期に学校訪問へ伺ったときに短冊に書いてあって、今の子は医者になりたいとか幼稚園の先生になりたいとか具体的な夢が持っていないような気がして、自分になりたい自分になるために頑張るのだとかかなり自分になるために選択の幅を広げてはいけないから色々勉強するのだとか、やりたい自分のイメージ像が子どもの中にできていないような気がして、どうしたらもっと子どもが夢を持てるというか。

○市長（柳澤重夫）

昔と今違い、保護者は学力に期待しているのではないの。

○教育長（河原崎 全）

やっぱり学力というのは全てと言いませんが、将来の可能性を広めていく基になるということは、

あると思います。点数が良いから、上の学校とか良い会社に勤められるとかそういうことではなくて、今の物事がわかっていれば、その人がなりたいものにより近づけるということもあると思いますので、子ども一人一人の可能性を広げてあげることができるという点では、学力がつくことというのは非常に大事だと思います。なおかつ、昔は暗記してたくさんの物事知っていれば通用しましたが、さっきの課長の説明ではないですが、基礎的なことは覚えてその後それをどう使っていくかという、何か見たときに疑問に思い、仕事に就いたときに今のこの状況のこういうところが弱いからここ改良したらもっと良い仕事ができるのではないかとか、自分の中で意識を持って行動に移してく。そういうところに結びつくことが求められていると思うのですが、そういう点でも、今の新しい学力というのはそこに直結すると思いますので、親は当然のことながら期待するところが大きいと思います。

○市長（柳澤重夫）

応用力やそういったものが果たして全てできるかということも、なかなかそうはいかないですし、それはいろんな人間関係の中では経験や体験をして応用力が身に付くこともわかっていただきたいですね。だから、どういうことで学力の向上を図っていくのかというのは難しいと思います。子どもたちの意欲、やる気を起こさせることが大事だし、四六時中勉強はできないので、一日の学校の授業の中でどういう時間帯で時間配分を組むのか、先生方の取り組みの姿勢とか今、島田さんが言ったように先生によっては生徒が手を上げて発表することもありますね。そういう雰囲気作りをする先生もいるし先生によって変わりますよね。不登校も先生によって変わる可能性もある。家庭環境ばかりではなく、先生が嫌だから行きたくないという子どもも特に小学生にも多い。

○教育委員（島田恵美）

先ほどのグラフで上位層が少なく、普通の子たちはもちろん一緒に伸ばすけれども上位層の子たちを伸ばすにはどうしたらいいか。それも難しいことだと思うのですが、何か具体策があれば実践していけばいいのですが。新しいこと始めるといろんな批判もあると思いますし。

○教育長（河原崎 全）

グラフのとおりで、できる子からなかなか定着しない子まで、バラつきはあるわけで、どうしても学校の先生方ではできない子を何とかしてあげたいとか、あと平均的なところに中心を持っていくものですから、できる子というのが、退屈してしまうところもあると思うので例えばグループ学習やるときにできる子とできない子を一つのグループにして、できる子ができない子に教えてあげるとか、できない子は教わる、できる子から教えてあげることによってより力をつけているとか、あと1時間の授業の終わりにできる子でも、もうちょっと頑張らなくてはいけないような問題を与えてジャンプアップをさせるとか、その時間には解決できないかもしれないが、宿題としてこれくらいのレベルの問題もあるというのを与えてあげて、できる子にはそれにチャレンジさせるとか。実践されていることがいくつかあると思うのですが、なかなか先生方もいろんなレベルの子がいるとそれぞれに対応するというのは難しいと思います。ただできる子が伸びていけば、下の子も自然に引っ張られていくのではないかなということは、ある気がします。

○教育委員（島田恵美）

できると自信に繋がると思いますので、それがまた家庭学習に反映していく。家庭学習1時間ぐらい勉強する子がたくさんいるけれども2時間以上やる子はいないので難しいことだと思います。部活で疲れて帰ってきてそのままになったりテレビを見たり携帯があったり、私たちの小さいころはなかったですけど、今は携帯をずっと見ているとか、そういうのが少し減って家庭学習の時間が少しでも増えればとか。やっぱり上位層の子たちは塾に行っていたりとか、そこで勉強の時間を確保したりすればっかりではないものですから、全面的にそうなっていけば、学力も向上するのだろうという。理想論ですが。

○市長（柳澤重夫）

子どもたちはいろんなスポーツをやって、土日なんか家にいないですね。その中で勉強するのなかなか難しいので学力は気にしなくてはいけない。学校教育の中で平準化していくかは簡単では

ないと思う。市独自の学力調査もやることですので、それが反映できるような取り組み方法があったら、教えていただきたいです。事務局でなにか提案はありますか。

○学校教育課長（長谷川延明）

ぜひ取り組んでみたいと思うことが実はありまして、今日第一小学校が静岡県庁で、文部科学省と静岡県の指定を受けた研究の成果を発表しています。この後11月にいろんな県から、岡山県からも見学に来たいという話がありますが、第一小学校で研究発表会が行われます。その成果を市内の教員全員が見て、こういう授業をやると力がつくということを実際に確かめて話し合いをしながら、自分のものにしていくような、そういうことを今年取り組んでみたいと思っております。先ほど小学校6年生と中学校3年生の比較をしましたが、やはり経年で何年か比較すると、どういう力が足りないであるとかどこでつまずくとかが明確になってくるかと思っておりますので、小学校2年生から5年生まで今テストを行っていますが、できれば中学校1年生、2年生でも実施をして小学校2年生から中学校3年生までの力がどのようについていくのかというところをぜひ分析をしながら、学力を伸ばす取り組みを行ってみたいとこちらは考えています。

続いて生活面について、質問紙から見えた取り組みを、資料にもありますが説明させていただきます。これは、毎日朝ご飯を食べているという子どもたちの全国平均が赤です。それを上回ってきていますが、平成28年度の緑色が小学校6年、今の中学校3年生で平成31年の一番右の青い点が中学校3年生ですので、ここ3年間で2%ですが、全国よりも伸びてきているということ。小学校は、本当に今どんどん伸びていることがこのグラフでわかると思います。昨年1年間かけて「朝ご飯を食べてきましょう」という取り組みを子どもたちには6回ほどアンケートを取り、保護者の方にもやってもらいましたが、そういう取り組みが確実に身につけてきているかというところが見えています。「朝ご飯を食べている」ということについては報告をした通り、平成30年度から比較しても伸びてきているということで、平成30年度が下で上が平成31年度で青いのが御前崎市ですので、全国も上がっていますが御前崎市はものすごい勢いで伸びてきています。中学校も全国も若干上がっていますが、市内の青いものが伸びているということが見てとれます。

課題ですが、「毎日同じ時刻に寝ている」というものですが小学校は全国も落ちてきています。全国も落ちていますが、御前崎市はそれよりもかなり低くて、昨年よりも今年若干下がっています。中学校は今年、全国よりもよかったですけれども、やはりパーセント的には低いことがわかります。

もうひとつ「同じ時刻に起きていますか」という質問ですけれども、全国も平成30年度から比べて小学校で落ちていますが御前崎市は、さらにパーセントが低い。中学校は、昨年は全国よりも良かったのですが、今年は良くないということで、生活習慣を身につけていくということが、大切ではないかと感じているところです。これをテストの結果、正答率とあわせてみました。「毎日同じ時刻に起きていますか」という小学校の質問を、算数とあわせてクロス集計をしてみました。「起きている」、「大体起きている」という子は、このときの市の平均が67%ですから、「同じ時刻に起きています」という子どもたちの点数はすごく高いということがわかります。起きてない子はすごく低く半分もとれていないということがわかります。中学校ですけれども、中学校は「同じ時刻に寝ていますか」という問いを数学と合わせてみると「ちゃんと寝ている」というのは市の平均が58.7%ですので、それよりも4ポイントぐらい高いという数字になっています。「同じ時刻に寝ていない」という子はテストの点数が低くなってしまいうことが見てとれます。

こういったテストの結果があるので、さらに生活習慣については、昨年は「早寝・早起き・朝ご飯」を取り組んできましたけれども、さらに市として推進をしていきたいという思いを持っています。そういったことについて、委員の皆さまから意見をいただければ嬉しいと思います。市長、よろしくお願ひします。

○市長（柳澤重夫）

今、生活実態調査について長谷川課長から話がありましたが、「早寝・早起き・朝ご飯」これはもうやっている。その結果が出たわけですが、これはどこの家庭でもやっていると思いますが、成績に影

響するのでしょうかね。

○教育委員（竹田和世）

テストの成績との相関というのが、規則正しい生活習慣ができていのかどうかで、こんなに顕著にあらわれるのだなと驚きました。やっぱり今、小学生の小さい子でもゲームとか動画を見たりして、寝る時間が遅くなったりしているようなので、今年のスクラムの取り組みがタイムリーで良い取り組みになっているのではないかと思います。

○市長（柳澤重夫）

朝ご飯は脳の活性化に大事だと思いますので、朝ご飯を抜くということはよくないと私は思います。これについて浸透はしていると思いますが、なかなか家庭によってはそうでもないかもしれませんね。

○教育長（河原崎 全）

市でやっている市民の意識調査の結果が発表されていますが、「スクラムスクール運営協議会の取り組みをどの程度御存じですか」という問いがあって平成 29 年度は、全体で 15%だったのが、去年と今年では 20%を超えています。5%ちょっと上がっています。これは全世代に対して聞いているものですから、特に今年度で言えば 30 代、40 代の親の世代を見ると、40 歳代では 40%を超えていまして、30 代でも 35%を超えていますから、その点では、保護者の世代の人たちにはかなり浸透してきているし、それも右肩上がりという気がしていますので、今年のスクラムスクール運営協議会の雰囲気を見ると、そこに出た人たちがまた各学校等へ行って取り組みについて呼びかけをしてくれているという気がしています。

○市長（柳澤重夫）

「早寝・早起き・朝ご飯」の結果というのは、保護者に伝わっているのですよね。

○教育長（河原崎 全）

はい。

○市長（柳澤重夫）

こういう結果が出ていけば、保護者もこれから気を付けると思います。

○教育委員（島田恵美）

保護者にとっても意識をもって朝ご飯を食べることができるので統計を取って結果として出すという事はすごく良いことだと思います。今まで食べていなかった人たちもこれを見て朝ご飯が学力に影響するというのをすごく皆で訴えたので「じゃあ食べさせなきゃ」という人も増えたのではないかなと。

○市長（柳澤重夫）

ただ「早寝・早起き・朝ご飯」と言うだけではなく、こういうデータをもっていると違いますね。

○教育委員（島田恵美）

今年は新たに「早く寝る」ということをやっていて、少し前に聞いたのですが進学校の進路の先生が勉強より先に寝ていますかということをお話していたということをお聞いたのですが、そういうことを聞くとやっぱり睡眠って大事だなと改めて思いました。

○市長（柳澤重夫）

実際、よその子の生活実態はなかなかわかりませんものね。それぞれの保護者に気を付けてもらうしかないですが、こういったデータも出ているので「早寝・早起き・朝ご飯」を御前崎市の子どもたちに習慣づける良い方策があったら、発表してください。

○学校教育課長（長谷川延明）

1 点は、小学校 4 年生、5 年生も今年市の独自テストの結果、朝御飯については大変良い数値が出ていますので、取り組みれば成果が必ず出てくることが明確になったかと思っておりますので、引き続き P T A 等と協力をしながら朝ご飯については取り組むとともに、早寝早起きも 2 年間くらいかけながら重点的にスマホやインターネットの問題等も含めて取り組んでいきたいと思っています。「ゲーム障害・ネット依存」から子どもを守る取り組みを、とにかく今年は重点的に行っています。

その中で読み聞かせとか読書が、子どもの脳の活性化に繋がるし、あとは親子のコミュニケーションですね。家庭を守るということにも繋がるということで、そういったところを呼びかけて「ゲーム障害・ネット依存」から、「読み聞かせ・読書」というところへ各家庭が変わっていきけるようなそんな思いを持てる講演会であるとか呼びかけをしていきたいと考えています。

その1つになります。社会教育課が毎年行っている青少年健全育成、「青少年の未来をつむぐ集い」ですが、今年は学校教育課と社会教育課として、先ほど教育長から話があったスクラムスクール運営協議会が三者で、「ゲーム障害・ネット依存」から子どもや家庭を守る講演会を実施したいと考えております。各園から池新田高校でもぜひ配りたいということで、前回の会では教頭先生がお話をしてくださいましたので、そういったところで全戸回覧と園から高校生までは保護者全員に配布をするという取り組みをして参加者を集めたいと思っています。

○市長（柳澤重夫）

ありがとうございます。これからの取り組みやイベントは皆さんもやっていただくといいことだと思います。先ほど第一小学校がモデル校としてやっていただくということで、先生方がそこで研修して「早寝・早起き・朝ご飯」が浸透し一過的なものでなくいろんなところが繋がるようにしていただけたらと思います。また、いろんなところで継続していただけるように取り組んでいただけたらと思います。

○教育委員（竹田和世）

いかに大勢の人に働きかけられて大勢の人に周知してもらえるかということですね。今スクラムだと、地域の公民館長とかもいらっしゃっていますし、子どもさんが小学生、中学生いらっしゃる家庭だけではなくて、地域の人にもそうやって広まっていけばと思います。

○市長（柳澤重夫）

日ごろから子どもたちは地域との交流がなかなかできないので地域の人たちとの交流というのは子どもたちにとって良い体験になります。地域ぐるみでということですね。昔はいろんなことをして地域の人たちと会いました。畑が通学路で、どうしても会わざるを得なかった。今の子どもたちは学校へ通学するにも誰にも地域の人と会わずに子どもだけで通学できてしまいます。昔以上に今は地域の中でそういった子どもたちを育てるといふか関わるというか、そういったことも求められます。今日は学力向上に向けての取組というかそういったものも含めて、今生活習慣や取り組みを説明していただきましたが、これはまた合わせて施策があったらみんなで肉付けをしていくことが必要かと思うのでお願いします。

○教育長（河原崎 全）

一点よろしいですか。秋田県が全国で学力が上位ということで有名なのですが、秋田での呼びかけの項目で「早寝・早起き・朝ご飯」があります。あと「元気な挨拶・明るい返事」があります。あと「学校と地域で語り合っていく」があります。もう一つ「ふるさとを支える自覚と志を子どもたちに持ってもらう」ということを重視しているというのです。御前崎市もそれに重なっている部分があると思うのですが、これらは強制的にやることではなくて、醸し出していくものだと思います。すぐには効果が出なくて、じわじわやっていくものだと思いますので、何年かかけて御前崎市も今申し上げたことを子どもたちに浸透させていくことができればいいなと思っています。あともう一方では前半でお話いただきましたが、授業の中で点数を若干意識しながら学力をつけていくということも大事だと思います。こちらについては、市長がおっしゃった先生方が持っている個々の魅力を、背中を見て育てていこうと言いますが、先生方それぞれがどういう背中を持っているかということと、あと技術的な指導の問題とあると思いますが、そちらが今度は園から高校までの縦のスクラムの中で力をつけさせていきたいと思っておりますし、最初申し上げた醸成していくほうは、地域とか家庭とか学校の横のスクラムの中で子どもたちの環境を整えていければと思いますので、若干の時間のかかる方と授業はなるべくスピード感を持って学力調査等の結果も入れながら、方策を考えていきたいと思っておりますが、そういう中で皆様方から良いお知恵を拝借して、子どもたちが少しでも自分の可能性を伸ばすことがで

きるように、私たちも支援をしていきたいと思いをします。

○市長（柳澤重夫）

今、教育長始め教育委員の皆さまから、色々なお話や方向性をお聞きしましたのでこれをこれからの教育行政の中で活かしていければと思います。いずれにしても教育というのは人間をつくるという大きな役割を持ったものが教育だと思いますので、教育現場で先生方にそういった指導ができるような環境を作っていただければと思います。

いずれにしても難しいですね。学力といってもなかなか言い表せないような難しい面もあります。ただ、一言いうなら学校の教育現場が1つの大きなプールとするならば、社会のプールの中でもしっかりと泳げるような子どもを育てて行くことが教育の役割だと思います。ただ畳の上で水泳をやっても社会で泳げませんので、社会へ出てもしっかり泳いでいけるそういった人間を育てることが教育の役割であると思います。学力のみならずそういったさまざまな社会性を身につけた子どもを育てていくのが私たちの役目だと思います。それには人というのは、1人では生きていけないので集団生活であるとか集団活動といったものによって人間性が育まれていくのであります。そういった機会を子どもたちに与えていただければ、必ず子どもたちは伸びるのではないかと思います。教育というのはいつまで経っても繰り返すというものはないので、御前崎市の教育はこうだという根本だけはいつの時代になっても持っていたほうが良いと思います。教育というのは先生方が情熱をもって教育して、その子どもたちどう残るかというのが教育だと思うのです。先生方はいろんなことを体験して社会性が豊かになって、そしていろんなことを織りまぜながら教育現場で勉強と一緒に教えていくことも大事だと思っています。